

富山県射水市

自治体名	〒939-0294 富山県射水市新開発 410
首長名	夏野 元志
HP	https://www.city.imizu.toyama.jp/
バイオマス産業都市選定年度	2014 年度
バイオマス産業都市構想	https://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/pdf/imizu3.pdf
担当部署	産業経済部 農林水産課
連絡先 TEL	0766-51-6677
連絡先 FAX	0766-51-6692
連絡先 e-mail	nourinsui@city.imizu.lg.jp



I 事業化プロジェクト

【表 1 : プロジェクト一覧表】

項目	名称	現状
プロジェクト 1	廃食用油活用推進	実施中
プロジェクト 2	木質バイオマス活用（堆肥製造事業）	実施中
プロジェクト 3	もみ殻の有効活用	実施中
プロジェクト 4	木質バイオマス発電	実施中

プロジェクト1の概要

名称	1.廃食用油活用推進		
実施主体	mineralism（株）		
概要	バイオマス原料	廃食用油	
	原料処理量(ℓ/年)	15,000	
	混合燃料 (kcal/年)	124,335,000	
	備考	BDF 製造は行わず、回収した廃食用油を燃料として活用	

プロジェクト2の概要

名称	2.木質バイオマス活用			
実施主体	北陸ポートサービス(株)			
使用する技術	堆肥製造			
実施体制 (計画)	プラントメーカー	日環エンジニアリング株式会社		
	バイオマス原料	樹皮	剪定枝、刈草	その他
	原料処理量(t/年)	2,000	3,000	550
	堆肥化製造量(t/年)	4,300		

プロジェクト3の概要

名称	3.もみ殻の有効利用	
実施主体	いみず野農業協同組合	
使用する技術	熱利用（もみ殻燃焼）	
実施体制	プラントメーカー	北陸テクノ株式会社 ヤンマーグリーンシステム株式会社 東海物産株式会社
	設計・施工業者	全農富山県本部
概要	バイオマス原料	もみ殻
	原料処理量(t/年)	321
	原料投入量(t/年)	321
	熱量 (kcal/年)	316,777,500
	もみ殻灰生産量(t/年)	64



施設全景



もみ殻原料タンク



もみ殻搬送装置



ボイラー（熱交換機）



もみ殻灰置き場（ストックヤード）



熱供給施設（温水ボイラー）



熱供給施設（貯湯槽）



もみ殻灰（ハイカラさん）散布 1



もみ殻灰（ハイカラさん）散布 2



もみ殻循環のフロー（射水市バイオマス産業都市構想より）

プロジェクト4の概要

名称	4. 木質バイオマス発電			
実施主体	グリーンエネルギー北陸株式会社			
使用する技術	木質バイオマス発電			
概要	バイオマス原料	未利用木材	一般木材	一般木材
	原料処理量(t/年)	64,400	4,000	3,000
	発電量 (MWh/年)	46,920		
	FIT の適用	<input checked="" type="checkbox"/> FIT 適用 <input type="checkbox"/> FIT 対象外		

イニシャルコスト(千円)

事業化プロジェクト名	3. もみ殻の有効利用
建設費・設備費等	190,060

バイオマス事業の進捗状況

事業化プロジェクト	計画との 進捗比較 ※	進捗状況
1.廃食用油活用推進	b	<p>社会福祉法人いみず苑が実施していた廃食油から作る混合油（BDF）の製造事業について、唯一の供給先であった市営温浴施設が令和5年度末で営業を終了し、混合油の供給先がなくなったことから、事業を廃止した。</p> <p>令和6年度からは温浴施設を運営する民間事業者mineralism（株）に事業を一部引継ぎ、廃油の回収を行う。</p> <p>（BDF 製造は行わず、回収した廃食用油を燃料に活用）</p>
3.もみ殻の有効利用	c	<p>もみ殻を燃焼させる際に発生する排熱を温水に変換し、隣接するハウス内で、イチゴ栽培における冬季間のハウス暖房に利用している。</p> <p>もみ殻を燃やした後に出てくるもみ殻灰をケイ酸肥料として販売できるよう、各種データを揃えるため実証試験・分析鑑定等を継続的に実施し、令和6年1月からもみ殻シリカ灰入り肥料「シリカエールプラス」と「カリ入りシリカエールプラス」の販売を開始している。</p>

a)計画以上に進んでいる b)ほぼ計画通り c)計画より遅れている d)進んでいない

成功要因

事業化プロジェクト	成功要因
1.廃食用油活用推進	自治体及び市民の協力

波及効果（雇用増加、CO₂削減効果等）

事業化プロジェクト名	成功要因
1.廃食用油活用推進	社会参加の促進低炭素社会の形成及び啓発

運営上の課題

事業化プロジェクト	運営上の課題
3.もみ殻の有効利用	施設運営に関して、もみ殻燃焼炉の稼働は平日の日中ののみのとなっているため、暖気及び冷却にかかる時間ロスがあるため 24 時間稼働による効率化を検討している。熱利用に関して、現在は冬期間のみの利用となっているため、夏場でも熱を利用できる事業を模索している。
4.木質バイオマス発電	事業者間で原材料が取り合いとなり、安定調達ができない。コスト負担の大きい P K S から建築廃材への切り替えを行ったり、未利用材の開拓として、従来は焼却処分されていたものについても、原料候補として検討を行っている。